

特集 I マイコプラズマの薬剤感受性測定法の検討*

はじめに

佐藤 静夫 (マイコプラズマの薬剤感受性測定法検討小委員会委員長)

標題の件について、今回シンポジウムが企画された経緯は次の通りである。すなわち、この問題に関して小委員会(メンバーは後記)を昭和56年に結成し、昨年までの3年間にわたり、検討を重ねた。その結果を一括して今回、三人の方に代表して発表願うことにした次第である。

その目的とした点は、当委員会のメンバーの高橋(日獣大)により、すでに印刷物(本誌P.18の村田論文の文献15)参照)に発表されている、*M. gallisepticum*の薬剤感受性測定法(試案)が、はたしてその他の鶏由来の *mycoplasma* (以下Mp.) や豚、牛由来のMpおよび *Ureaplasma* (以下Up.) にもそのまま適用してよいかどうか、修正点がないかということを明らかにするため、小委員会で検討を重ねた。その中で問題点としてあがってきたのは、①接種菌量をどの程度とすべきか、②培地として何を用いるのが適当か、③M I Oの判定法をどうするかの3点で、特に③が最も大きな問題と考えられた。

三年間の検討の結論として、各菌種それぞれに問題点があり、各種のMpあるいはUpについて、一つの方法でやるのは無理であろうという空気であり、各演者の発表を伺った上で参会者からの意見も加えて、当研究会としてまとめたい、という主旨である。

[注:小委員会のメンバー] 佐藤静夫、橋本和典、国安主税(以上家衛試)、山本孝史、跡部ヒサエ(以上東大)、村田昌芳(広島大)、清水高正(宮崎大)、高橋 勇(日獣大)。(順不同)

1. 2, 3の動物由来マイコプラズマおよびウレアプラズマの薬剤感受性測定法について

清水 高正¹⁾ 永友 寛司¹⁾ 末石 哲之²⁾ 村川 泰司³⁾
(¹⁾宮崎大, ²⁾塩野義製薬, ³⁾化血研)

A Test for the Measurement of Drug Sensitivity of Mycoplasmas and Ureaplasmas from Animals

Takamasa SHIMIZU, Hiroshi NAGATOMO (Miyazaki Univ.),
Tetsuyuki SUEISHI (Shionogi Pharm. Co., Ltd.) and
Taiji MURAKAWA (Chemo-Sero Therap. Inst.)

緒 言 M)を対象とする薬剤感受性試験の標準法が確
マイコプラズマ(*Mycoplasmales*, 以下 立されていないため、研究者により独自の方式

* 昭和59年4月9日開催の第11回シンポジウムの要旨。特集IIも同じ。